

噴火口

この3年間での新型コロナウイルス（わが国2回目まで）は、50代以上は90%以上、20代から40代は80%台、12〜19歳が70%でした。それより下の年代では、がくと落ちて5〜11歳で19%、生後6か月〜4歳がわずかに3・5%という結果でした。みなさんはワクチンを接種させない保護者に対して「最近の若い親は、なつて



ないな！」と思っていませぬか？小児科医の私は、ワクチン接種をさせなかった親御さんを責めるつもりは毛頭なく、実は「小さな子どもさんを持つ親御さんは良くわかつていたなあ」と考えています。子どもさんは多くの感冒ウイルスによってよく熱をだし、10人に一人は発熱時に熱性痙攣等の合併症を起こしますが、大抵は痙攣もすぐお

さまり、問題なく成長していくものです。私自身も小児新型コロナウイルスを1000人以上診断しましたが、重症患者は皆無でした。ただ子どもさんでも一般感冒で30万人罹患に対して一人くらいは死に至りま

乳幼児の感染症はいつも新型

すが、こういう患者さんを救うことは今の医学では無理な事が多い。それは潜在性高アノモニア血症などの先天的な遺伝子異常があり、感冒などの体調悪化によって初めて露見されることが多いからで

す。小児では新型と既存の感冒コロナウイルス感染は臨床的に区別が付きません。子どもの感染症の多くは軽症で、新型コロナウイルスもその一つに分類されるべきものです。乳幼児の移行していきます。新型コロナウイルスだけが悪化を惹起するタンパク質等を産生しているわけではなく、全てこちら側の人体の反応が問題になります。また成人になると、初物に対して、獲得免疫に

の感冒ウイルスに対しても注意が必要でしょう。しかし割り切って現在の世代毎の生活を改めて、お孫さんとの生活を時間を増やして、3年に1回くらいは感冒にかかるという事も生活の選択肢に入つても良いのではないかと、思っています。

7月10日現在、子どもの生活も自粛をやめたので、3年ぶりに乳児期にかかるほぼ全てのウイルス性疾患が満遍なく流行しており、小児科外来は多忙を極めています。その殆どは軽微な感染症で終わりますが、感染者数が多すぎることによって、稀ながら重症化

に陥り死に至る症例もあります。成人の新型コロナウイルス流行時の救急病院搬送不可能に似てきた状況で、小児科病棟も満床になる所もでてきました。ただ筆者は、また感染対策を厳しく！というつもりはありません。子どもは感冒にかかりながら自然免疫から獲得免疫という移行を上手にこなしていきますので、そもそも新型コロナウイルスのみ別格で扱う必要もありませんでした。コロナ前と同じように、子どもにとっては普通の生活をするのが一番大事だと思います。

理事 駒木 智